

令和4年度 教育事業（SDGs関連事業） 親子でSDGs秋を楽しもう！

1 事業概要

SDGs 関連事業の一環として、県下の小学4～6年生の児童と保護者を対象に、国立大洲青少年交流の家を会場にした一日体験活動を企画した。SDGsに係る3つの体験プログラムを試行し、参加者のSDGs実践への意欲付けを図った。事後には、館内掲示物やホームページでの学習成果の啓発を行った。

2 事業の目的（ねらい）

SDGsの観点に立った親子での体験活動を通して、地球環境の保全や持続可能な社会への関心を高め、日常生活の中でSDGsを意識して行動する心情や態度を育てる。

3 企画のポイント

食の問題からグローバルな環境問題へと広げていく3つのプログラム構成とした。買い物ゲームについては、実績のあるNPOに依頼して、今後の独自のプログラム作成の参考にした。SDGsカレー作りでは、工夫点は多くあるが、あえて強要せず参加者の判断で調理に臨ませ、後から工夫点を共有し合うようにした。また、クイズラリーの振り返りの際に各自のSDGs宣言（葉の形をしたカード）を「できることから始める木」に貼る手法を取り入れることで、参加者の実践への意欲付けを図るようにした。

- 4 主催 国立大洲青少年交流の家
- 5 期 日 令和4年11月20日（日）
- 6 場 所 国立大洲青少年交流の家
- 7 対 象 小学4～6年生とその保護者
- 8 参加人数 26名（子供13名、保護者13名）
- 9 講 師 NPO 消費者支援グループひめまる代表 武田 咲枝 氏
- 10 日 程

9:30 開会式・アイスブレイク
10:10 「お話と買い物ゲーム」
11:20 「カレー作り SDGs バージョン」
14:20 「ときが森 SDGs クイズラリー」
15:30 振り返り・閉会式

11 活動内容

アイスブレイク後、親子でカレーの材料（ニンジン、ジャガイモ、タマネギ、牛肉か豚肉をそれぞれ三択で選び、かつ1,000円内に収めるという買い物ゲームをした。その後、実際にカレー作りを班ごとに行った。どのような調理法や片付け方がSDGsにつながるかを工夫しながら調理した。休憩をはさんで、鶴ヶ森をフィールドにSDGsに関するクイズラリーを行った。食の問題から入り、飢餓や地球温暖化、海洋汚染、生物多様性の問題へとテーマを広げていき、ゴールで「自分にできるSDGs宣言」をし、宣言カードを「できることから始める木」に貼った。



12 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を示す。 *満足：92% *やや満足：8%

- SDGsのことを考えながら買い物をしていなかったなので、考えさせられた。
- 子供に火起こしの初体験をさせることができた。いつもよりカレーがおいしかった。
- 事前にどうするかを話し合ってから調理に入れたので、SDGsを意識しながら調理ができた。
- 身近なことからSDGsを考えることができたので、今後の生活に取り入れやすかった。
- 秋の自然に親子で触れることができたので良かった。また参加したい。



13 事業の成果（参加者の様子を含む）

初めて企画したSDGs関連事業だったが、食の問題からグローバルな環境問題へと広げていく3つのプログラム構成と順番が効果的で、参加者の学びの質や意識向上につながった。

買い物ゲームでは材料の地産地消や徳用品、被災地支援等を考えながら買い物をするゲームを通して、多方面からSDGsについて考えることができ、今後SDGsを意識した買い物を心がけようとする意識を高めることができた。

SDGsカレー作りでは、あえて参加者の判断で調理に臨ませ、事後にSDGsへの工夫点を共有し合うことで、参加者の気付きや学びをより深めることができた。また、この活動を契機にSDGsを意識した調理を試みようとする前向きな発言を聞くことができた。

事業の最後に各自のSDGs宣言（葉の形をしたカード）を「できることから始める木」に貼る手法を取り入れることで、参加者の実践への意欲付けを図ることができた。



14 事業の課題

買い物ゲームは、小学校中学年には少し難しかった。今回は指導をNPOに依頼したが、最終的には独自のプログラムを作り上げたい。また、対象年齢を小学5年生から中学生までに上げ、保護者の参加については要検討とする。カレー作りでは、使う洗剤にも配慮したい。さらにSDGsに関する3つのプログラムの内容に検討を加え、自信を持って利用者に提供できるプログラムに育てていくことが肝要である。

（担当：企画指導専門職付係員 小池 源規）